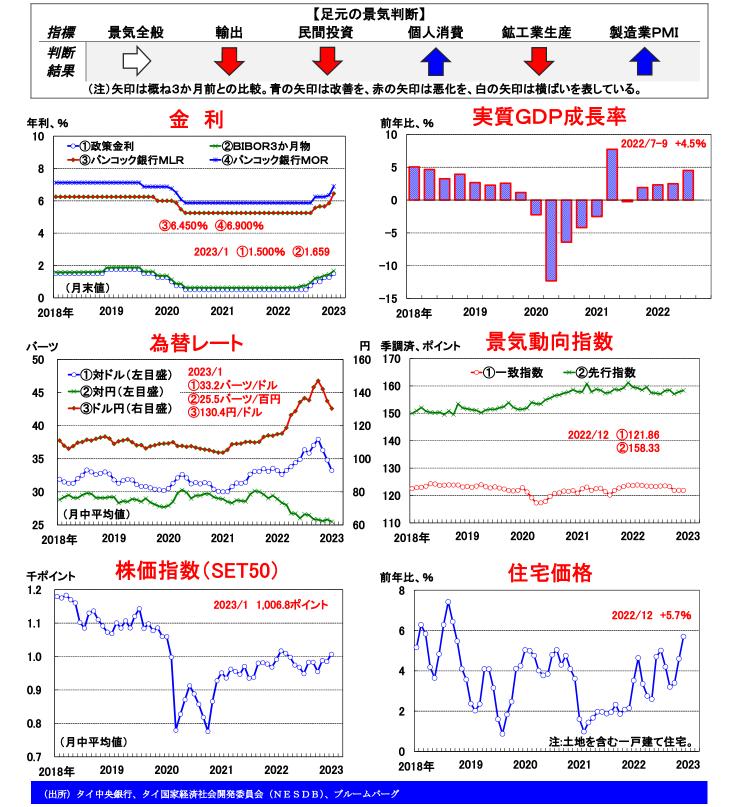
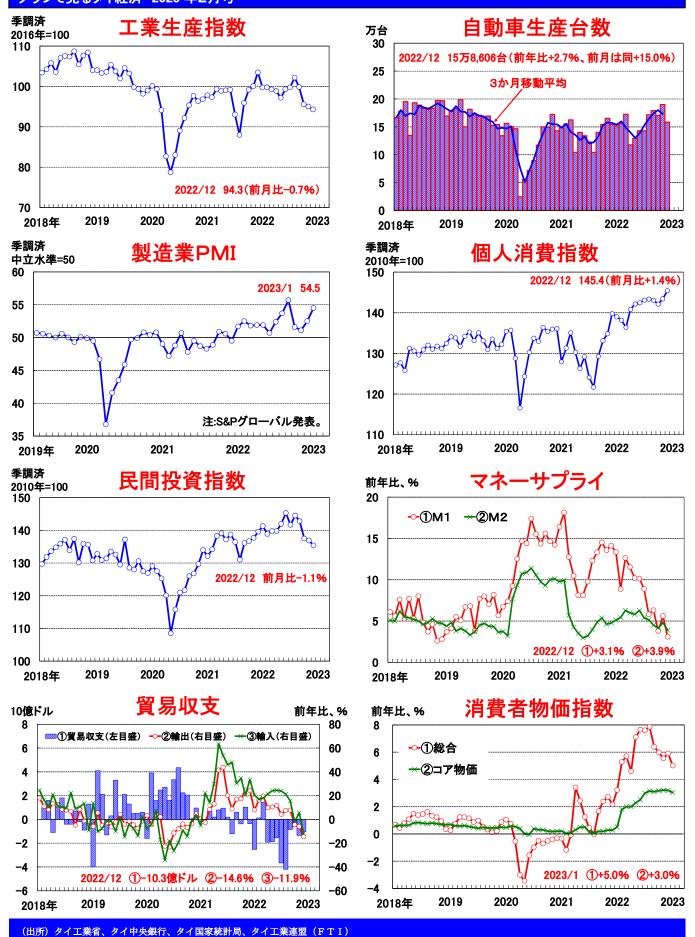
グラフで見るタイ経済 2023 年2月号(No. 164)

タイ景気は企業部門の足取りが鈍い一方で、インバウンド消費などに持ち直しの動きがみられる。まず、企業部門では、22年12月の輸出が大幅な前年割れとなった。内訳をみると、中国向けの減少幅が拡大し、米国向けも前年割れに転じた。同月の工業生産指数も4か月連続で下落した。ただ、続く23年1月の製造業PMIは2か月連続で上昇した。「新規受注」の増加などにより製造業の景況感は上向いている。一方、22年12月の個人消費指数は2か月連続で上昇した。内訳をみると、海外観光客の入国増加を背景に非居住者消費が改善した。



本レポートの目的は情報の提供であり、何らかの行動を勧誘するものではありません。本レポートに記載した内容は、レポート執筆時の情報に基づくものであり、レポート発行後に予告なく変更されることがあります。本レポートに記載されている情報は、浜銀総合研究所・調査部が信頼できると考える情報源に基づいたものですが、その正確性、完全性を保証するものではありません。ご利用に関してはお客様ご自身で判断くださいますようお願いいたします。本レポートは情報提供のみを目的として浜銀総合研究所・調査部が作成したものであり、横浜銀行との何らかの取引を勧誘するものではありません。

グラフで見るタイ経済 2023 年2月号



本レポートの目的は情報の提供であり、何らかの行動を勧誘するものではありません。本レポートに記載した内容は、レポート執筆時の情報に基づくものであり、レポート発行後に予告なく変更されることがあります。本レポートに記載されている情報は、浜銀総合研究所・調査部が信頼できると考える情報源に基づいたものですが、その正確性、完全性を保証するものではありません。ご利用に関してはお客様ご自身で判断くださいますようお願いいたします。本レポートは情報提供のみを目的として浜銀総合研究所・調査部が作成したものであり、横浜銀行との何らかの取引を勧誘するものではありません。